

JUDI 琉球ブロック

ブロック幹事

前原信達 Nobutatsu Maehara

ブロックメンバー

石嶺 一 木下能里子 新嘉喜長健 伊良部一史 前原信達

<琉球ブロックメンバー>

左より

新嘉喜長健

石嶺 一

前原信達

木下能里子

※伊良部一史氏は個人ポート
フォリオ参照



■ブロックの置かれた地域特性、課題など

亜熱帯の広大な海域に点在する島しょ県沖縄は、特異な風土と歴史文化特性のもと、個性ある都市景観美を築きあげてきた。1855年に来琉した欧米人は、当時の首里の都の景観を次のように記している。「緑したたる街並み、見晴らしのよい丘、こんもりと繁る木立、どれをとりあげても首里の都は世界一美しい。……あの伝統の国イギリスでさえこんな古色蒼然たる自然の庭園は持ち合わせていないのだ。」(「スポールディング航海記」)。日本民芸協会の柳宗悦も記している。「日本にある殆ど凡ての城下町を訪ね歩いた吾々に、どの町が最も美しいかを問われる方があるなら、私たちは躊躇(ためら)はず直ぐ答えるでせう。沖縄の首里が第一であると。……自然と歴史と人文との調和が、かくもよく保存せられている都市は希有な存在だと云わなければなりません。」(「沖縄の人文」)。沖縄戦による壊滅的な破壊とその後の復興に向けた急激な社会基盤整備等で変容したかつての都市美のデザインコードを読み解き、現代流に継承・発展させていくのが私たちの課題であり使命である。

■地域の都市デザイン、まちづくり等への現状の取り組みと活動概要

沖縄県では41の市町村中28が景観行政団体(2014.3)となり、各地の景観まちづくりや都市デザインの再構築に取り組んでいるところである。このような市町村の取り組みを支援する形で、県では景観人材育成事業を2003年度からスタートさせた。これは地域の景観形成の担い手となる人材(風景づくりサポーターや景観技能者、地域景観リーダーなど)の育成とともに、市町村の景観行政人材と風景づくりに関わる専門家のスキルアップを支援する事業である。また、景観形成と地場産業振興の観点から、伝統的素材の活用はもとより、風土に適した新素材の開発や新たな技術の開発など、建築技術の側面からの支援にも力を入れつつある。今後返還が予定される嘉手納以南の大規模駐留軍用地跡地の景観まちづくりも視野に置いて、地域と行政、専門家などが連携していける仕組みづくりが模索されている。

■ブロックとして、JUDIとしての課題解決の方策と今後の活動ビジョン

景観法だけでは対応できないさまざまな地域課題があることから、専門性を超えた幅広い観点からの具体的な取り組みが求められている。県の進める景観人材育成での専門的アドバイザーとしての役割のほか、建築、土木、ランドスケープ、環境、税制、行財政などの専門分野と連携し、沖縄の将来の風景を見据えながら具体的に地域でモデル的な取り組みを進める必要がある。メンバーが少ない琉球ブロックでは、当面は他の専門分野と景観まちづくりに対する考えを共有しながら、関連団体との連携・協力による活動を展開していくものである。

琉球ブロックのおすすめ景観

旧正月を控えた市場(第一牧志公設市場/那覇市牧志)

地域の生活文化を知るには市場が一番。全国画一になりがちなスーパーマーケットにはみられない相対売りのなかに沖縄の食文化・生活文化が感じ取れる。活気あふれる市場(まちぐわー)の継承が沖縄らしさに不可欠である。



街の中の拝所(アガリヌカーとビジュアル御嶽/那覇市壺屋)

都市の中に息づく拝所空間。一見平板に見える都市空間の中に地域の成り立ちに関わる聖なる場や、大切な道筋などが見え隠れする。地域の個性を醸し出す都市の遺伝子は失いたくない。



白砂の集落道(渡名喜集落道/渡名喜村)

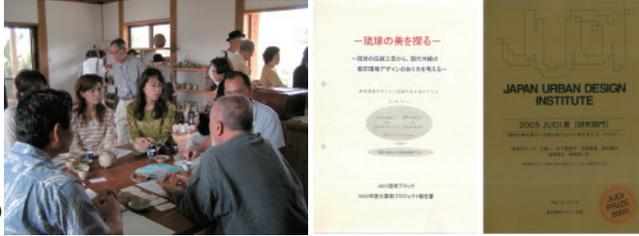
県内ではほとんど見られなくなったサンゴ石灰岩の白砂の道。今では渡名喜集落と竹富集落の一部に残るのみである。月明かりでも猛毒ハブを認識できるくらしの知恵でもあった。自然と歴史と人文が調和した景観の一例である。



琉球ブロック活動紹介

JUDI 公募制プロジェクト「琉球の美を探る」

2003年から2005年まで「琉球の美を探る」をテーマに研究活動を展開。漆工芸や焼物、庭園、建築、植物などの専門家を工房やフィールドに訪ね、各分野から琉球の美に迫る刺激的な話を伺うことができた。その成果は冊子の形でまとめている。2005年 JUDI 賞 [研究部門] を受賞した。



AOA (有機的建築アーカイブ) との交流活動

2009年、フランク・ロイド・ライトの有機的建築を学ぶ AOA の主催する講演会に JUDI 琉球ブロックのメンバーも発表者として参加。2014年には AOA 主催の活動パネル展示・フォーラムに参加する形で JUDI 琉球ブロックの活動パネル展示を行った。



「JUDI 琉球・都市環境デザインフォーラム 2009」開催

2009年に関西ブロックから中村伸之氏を招いて「新景観政策1年を経過した京都から学ぶもの」をテーマにフォーラムを開催。

地元ゲストの発表および琉球ブロックメンバーの発表も行った。

京都の景観動向を聞けるとあって関心呼び景観計画に着手しようとする行政職員や設計士の参加者も多かった。



「タイムス住宅新聞」へのコラム連載

2009年から2010年にかけて、地元新聞社の発行する週刊「タイムス住宅新聞」に JUDI 琉球ブロックとしてコラムの連載を担い、メンバーが順番で寄稿(計9回)を行った。



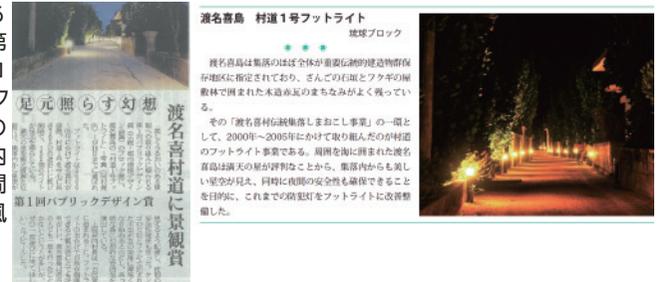
「オキナワスタイルの系譜」フォーラムおよびバスツアー

2010年に「亜熱帯のコンクリートデザイン」をテーマにバスツアーおよびフォーラムを開催した。嘉手納基地内の建築や本土復帰前の団地、外人住宅、最近のアパート建築などを見学した。那覇に戻り、鳴海先生の基調講演の後、地元建築家、マスコミに琉球ブロックメンバーが加わりフォーラムを行った。



第1回パブリックデザイン賞「ブロック賞」受賞

2011年、美しくうるおいのある景観への取り組みに贈られる第1回パブリックデザイン賞のブロック賞に渡名喜島の「村道1号フットライト」が選ばれた。満天の星を観光資源と位置づけ、集落内から星空が見えるよう配慮し夜間の安全性も確保していることが風土と調和していると評価された。地元紙にも紹介された。



戦後沖縄の都市環境デザインの動向～年表作成に向けて～

2012年から現在にかけて、戦後のアメリカ文化は沖縄の風景に何を残したか、復帰後の沖縄の風景をどう評価するのか、などの観点から「建築まち歩き」、「専門家ヒアリング」を継続的に実施している。



他ブロックとの連携・交流

2012年、沖縄県人材育成計画の本土視察で、関西ブロックの協力のもと、京都姉小路界隈の見学および取り組みレクチャー、三条界隈の近代建築見学など交流を深めた。福岡博多でも九州ブロックの協力のもと博多まちづくり協議会の取り組みレクチャーと博多駅界隈のまち歩きの協力を頂いた。

